



No.75 Dec. 2019

NABUNKEN NEWS



独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577 奈良市二条町2-9-1
<https://www.nabunken.go.jp>

国宝となったキトラ古墳壁画の活用

キトラ古墳は、奈良県明日香村にある、7世紀末から8世紀初頭(飛鳥時代)に築かれた円墳です。石室内の四方の壁には四神(青龍、朱雀、白虎、玄武)と十二支が、天井には天文図と日月像が描かれています。2019年7月23日、これらの壁画が全て国宝に指定されました。陰陽五行思想にもとづいた壁画の全体構成が判明する点や、高松塚古墳では見られない朱雀が良好な状態で残っている点が極めて貴重で、また、天文図は現存する世界最古の本格的な中国式星図として比類ない価値をもっています。

奈良文化財研究所は発掘調査から保存、公開活用まで、長らくキトラ古墳の事業に携わってきました。保存のために石室から取り外された壁画は、現在、キトラ古墳壁画保存管理施設にて保管しており、期間限定で公開しています。壁画は公開時に見ることができますが、石室内の様子を見ることはできません。そこで、国宝指定のポイントにも挙げられた「壁画の全体構想」を体感してもらうことを目的に、キトラ古墳の石室のペーパークラフトを、国宝指定の記念品として制作しました。組み上げると、手のひらサイズの小さな石室が完成します。この記念品は、9月21日から10月20日におこなわれた『キトラ古墳壁画の公開(第13回)』への参加者に、1万枚限定

で配布しました。

ペーパークラフトの制作にあたり、奈文研のキトラ古墳の発掘調査の成果を活用しました。石室の内部空間を再現するため、壁画の写真には、取り外し前の石室内の様子を正確に撮影したフォトマップのデータを使用し、天井の屋根形の割り込みの形状にもこだわりました。合欠きの表現や盗掘孔の形など、可能な限り実物に近い状態を再現しています。また、これにあわせて高松塚古墳の石室のペーパークラフトも制作し、仮設修理施設の公開で配布しました。

10月5日には、これらのペーパークラフトを用いたワークショップを開催しました。研究員によるキトラ古墳の解説の後、ペーパークラフトを組み立て、完成したミニチュア石室の盗掘孔からファイバースコープを入れて、壁画発見当時の感動を味わう体験をおこないました。参加者からは「このような大人も楽しめるイベントを定期的に開催してほしい。」「完成度が素晴らしい。」等のお声をいただきました。今回の経験を活かし、今後も文化財を活用した活動をおこなっていきたいと考えています。

第14回キトラ古墳壁画の公開は、2020年1月18日から2月16日、北壁の「玄武」を展示する予定です。国宝となった壁画をぜひご覧ください。

(飛鳥資料館 石橋 茂登・荻山 琴美／
埋蔵文化財センター 吉田 万智)



キトラ古墳壁画国宝指定記念 刊行物
(ペーパークラフトとチラシ)



ペーパークラフトを用いたワークショップの様子